



利島村“人づくりが島づくり”大綱 説明資料

令和6年1月 利島村教育委員会



〈公表にあたって〉

このたび、利島の教育改革の大きな柱として、利島村“人づくりが島づくり”大綱を公表します。「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により規定された「地方公共団体の教育、学術及び文化の進行に関する総合的な施策の大綱」、すなわち**教育大綱として定めるもの**です。村長・教育長との意見交換会（令和5年11月3日、11月13日）や意見募集（令和5年10月29日～11月15日、12月22日～令和6年1月12日）などにより、島民参加型で作成し、令和6年1月24日に開催された利島村総合教育会議において決定されました。

「改定」というよりも、「練磨」といった表現が適切になるかと思いますが、平成28年8月公表の前大綱をバージョンアップしたイメージです。人口300人の利島村では、**一部の人だけが頑張り、多くの人「他人事」であれば、幸せな生活の維持・向上が困難**です。また小規模だからこそ、島全体の一体感の醸成が必要不可欠です。そのような課題意識と、高校が無いという特徴（15の春に向けた「自立」）を合わせ、**新しい教育大綱では「当事者」「自立」「一体感」の3本柱を据え、目指すべき人物像を「利島を良くする自燃性の人」としています。**

また「**“人づくりが島づくり”大綱**」という名の通り、**島民全体にとって拠りどころ**となることを願っております。島の宝である子供たちを島全体で支えていき、その支える島民自身も成長できる。そのような利島を目指し、新しい教育大綱として公表します。

〈本資料について〉

本資料は、「“人づくりが島づくり”大綱」に込めた想いや議論の経過をまとめたものです。「表」である大綱全文の「裏側」の**解説資料として、理解促進にご活用ください。**

新しい教育大綱を「拠り所」とし、新大綱の実現に寄与する取組は推進し、寄与しない取組は縮小・廃止する等、「島づくり」につながる「人づくり」の取組を強力に推進してまいります。何卒ご理解・ご協力・ご尽力のほど、よろしくお願いいたします。

なお、教育には誰もが強い想いをお持ちだと思います。また「不易と流行」と言われるように、教育には変わらない普遍的な部分と時代と共に変わっていく部分があります。これからの社会はまさに「予測不可能」ですから、“人づくりが島づくり”大綱も、例えば5年後（もっと早いかもしれません）にはまた改定の時期を迎えるかもしれません。本説明資料では、利島に関わる人々がどのような想いで今回の教育大綱を策定したか記載していますので、本資料は、次回改定の際の基礎資料になることを期待します。

1. 利島村“人づくりが島づくり”大綱の全文【p4】
2. 内容説明【p6-16】
3. 意見募集結果と、修正版への反映状況【p18-21】
4. 参考資料【p23-28】



利島村“人づくりが島づくり”大綱～利島を良くする「自燃性」の人：「当事者」「自立」「一体感」～

利島村及び利島村教育委員会は、利島の将来像『生き生きとした活力のある島 自立する村 利島』を実現するため、利島村民や利島にゆかりある人々（利島人）の力に最大の価値をおきます。

一人ひとりが自燃性を発揮し、村の将来を創る「自立した当事者」として活躍する「一体感のある島」利島の実現を目指します。

≪ 3つの柱 ≫

そのために、以下 3つの柱を設定し、利島の強みを生かした前向きな取組を推進します。実施する取組は、村民の皆様からの生の声と数量的なデータの両面から効果検証し、改善していきます。

- (1) 一人ひとりが、利島や世の中をより良くする「当事者」として生涯学び合い、高め合い、行動し合う島づくり
- (2) 子供たちの「15の春」に向けた「自立」をみんなで実現する島づくり
- (3) 多様性のもとで支え合い、住みやすさと幸福を実感できる、「一体感」のある島づくり

- (1) 一人ひとりが、利島や世の中をより良くする「当事者」として生涯学び合い、高め合い、行動し合う島づくり



- ・「評論家」ではなく物事を自分事として捉える「当事者」として、利島や世の中を良くするために行動できる人材の育成
- ・周囲と協調しながら、失敗を恐れずに前向きに挑戦できる人材の育成
- ・島内外の知恵・知見を生涯にわたって学び続け、現在利島に住んでいなくても利島に貢献できる仕組みの充実

- (2) 子供たちの「15の春」に向けた「自立」をみんなで実現する島づくり



- ・「利島ならではの」環境を生かし、予測不可能な時代にあらゆる場所で活躍できる「利島っ子」を育てる義務教育学校
- ・利島の担い手の一員である教師自身が学び続けて成長できる、「教師が育つ利島」の実現
- ・「15の春自立シート」や「利島っ子カリキュラム」に基づき、保育園・学校・家庭・地域等の関係者一丸で子供を応援し、子供と大人が共に成長する地域ぐるみの子育て

- (3) 多様性のもとで支え合い、住みやすさと幸福を実感できる、「一体感」のある島づくり



- ・利島に「住んでみたい」「住み続けたい」「帰ってきたい」と思う、安心できる「居場所」と盛り上がることのできる「舞台」の創出
- ・「憶測」ではなく「対話」で溢れるようにするための、お互いを認めて語り合える場づくり
- ・一人ひとりの将来と村の将来について見通しを持ち、安心して利島に住み続けられるようにするための支援の充実

1. 利島村“人づくりが島づくり”大綱の全文【p4】
2. **内容説明【p6-16】**
3. 意見募集結果と、修正版への反映状況【p18-21】
4. 参考資料【p23-28】

教育大綱（きょういくたいこう）とは？

⇒教育に関する取組の根本となる基本的な方針のことです。

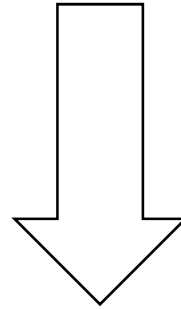
⇒利島村の教育に関する方針の中で、最も上位に位置するものです。

⇒教育に関して様々な取組を行う上で、「そもそも何のための取組だっけ？」と思った際に立ち戻る「拠り所」になる方針が、教育大綱です。

（参考）地方教育行政の組織及び運営に関する法律

第一条の三

地方公共団体の長は、（略）、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めるものとする。



- 利島村では、平成28年8月に「利島村教育大綱 ～夢と希望をつなぐ 学びの道しるべ～」が策定されていました（p27,28に掲載しています）。
- 村政100周年を迎える中、かつてないほど予測不可能な時代になっており、今の利島にあった方針に改定することが必要です。そのため7年半ぶりに教育大綱を改定します。

利島村“人づくりが島づくり”大綱全文

8ページ

利島村“人づくりが島づくり”大綱～利島を良くする「自燃性」の人：「当事者」「自立」「一体感」～



利島村及び利島村教育委員会は、利島の将来像『生き生きとした活力のある島 自立する村 利島』を実現するため、利島村民や利島にゆかりある人々（利島人）の力に最大の価値をおきます。

一人ひとりが自燃性を発揮し、村の将来を創る「自立した当事者」として活躍する「一体感のある島」利島の実現を目指します。

≪ 3つの柱 ≫

そのために、以下 3つの柱を設定し、利島の強みを生かした前向きな取組を推進します。実施する取組は、村民の皆様からの生の声と数量的なデータの両面から効果検証し、改善していきます。

10ページ

- (1) 一人ひとりが、利島や世の中をより良くする「当事者」として生涯学び合い、高め合い、行動し合う島づくり
- (2) 子供たちの「15の春」に向けた「自立」をみんなで実現する島づくり
- (3) 多様性のもとで支え合い、住みやすさと幸福を実感できる、「一体感」のある島づくり

9ページ

- (1) 一人ひとりが、利島や世の中をより良くする「当事者」として生涯学び合い、高め合い、行動し合う島づくり



- ・「評論家」ではなく物事を自分事として捉える「当事者」として、利島や世の中を良くするために行動できる人材の育成
- ・周囲と協調しながら、失敗を恐れずに前向きに挑戦できる人材の育成
- ・島内外の知恵・知見を生涯にわたって学び続け、現在利島に住んでいなくても利島に貢献できる仕組みの充実

11ページ

- (2) 子供たちの「15の春」に向けた「自立」をみんなで実現する島づくり



- ・「利島ならではの」環境を生かし、予測不可能な時代にあらゆる場所で活躍できる「利島っ子」を育てる義務教育子校
- ・利島の担い手の一員である教師自身が学び続けて成長できる、「教師が育つ利島」の実現
- ・「15の春自立シート」や「利島っ子カリキュラム」に基づき、保育園・学校・家庭・地域等の関係者一丸で子供を応援し、子供と大人が共に成長する地域ぐるみの子育て

12-14ページ

- (3) 多様性のもとで支え合い、住みやすさと幸福を実感できる、「一体感」のある島づくり



- ・利島に「住んでみたい」「住み続けたい」「帰ってきたい」と思う、安心できる「居場所」と盛り上がることのできる「舞台」の創出
- ・「憶測」ではなく「対話」で溢れるようにするための、お互いを認めて語り合える場づくり
- ・一人ひとりの将来と村の将来について見通しを持ち、安心して利島に住み続けられるようにするための支援の充実

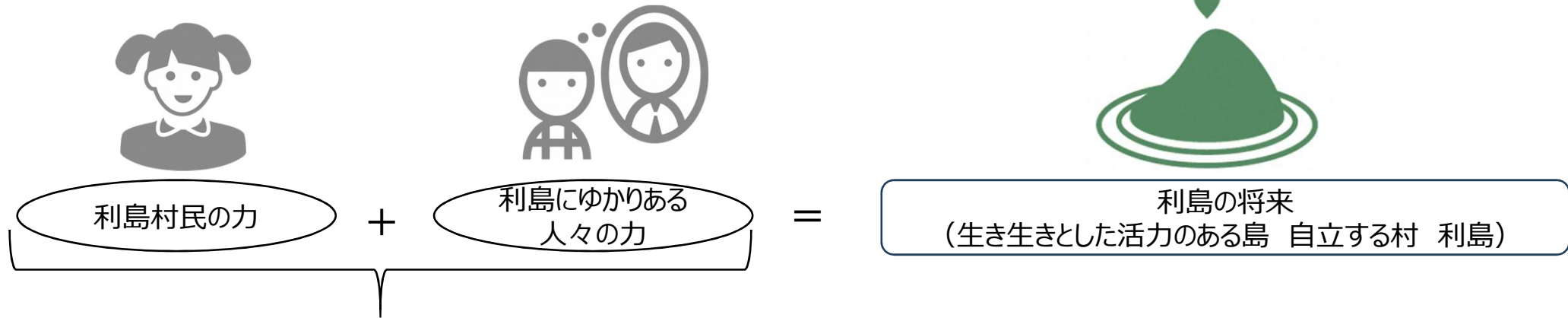
16ページ

「人づくりと島づくりの密接性」と「自燃性の人」

【意見募集結果の抜粋】

- この教育大綱は、学校教育の範囲のみならず島づくり全体につながる幅広いもの。その意味で「人づくり大綱」「島づくり大綱」などの名前の方が良いのではないか。
- 「生き生きとした活力のある島 自立する村 利島」を担う人物像をイメージできるスローガンのようなものがあるとわかりやすくなる。利島村を担う人物像を示し、その人物に必要な資質が「当事者」「自立」「一体感」ということであれば、すっと腹に落ちる。

人の力が、利島をつくる = 「人づくりが島づくり」



【生き生きとした活力のある人 自立する人 「利島人」】が、【生き生きとした活力のある島 自立する村 利島】をつくる

利島を担う人物像「**自燃性の人**」

（「自燃性の人」についての解説）
ものには、自燃性、可燃性、不燃性があるように、人にも、以下3タイプがあるとされます。

- ①自分で勝手に燃え上がる**自燃性**の人
- ②火を近づけると燃え上がる**可燃性**の人
- ③火を近づけても燃えない**不燃性**の人

（稲盛和夫ホームページ「自ら燃える」より）

<https://www.kyocera.co.jp/inamori/about/thinker/philosophy/words13.html>



「利島を良くする**自燃性の人**」に必要な資質

- ①**当事者**意識のある人
- ②**自立**を目指し続けている人
- ③**一体感**を自ら生み出すことができる人

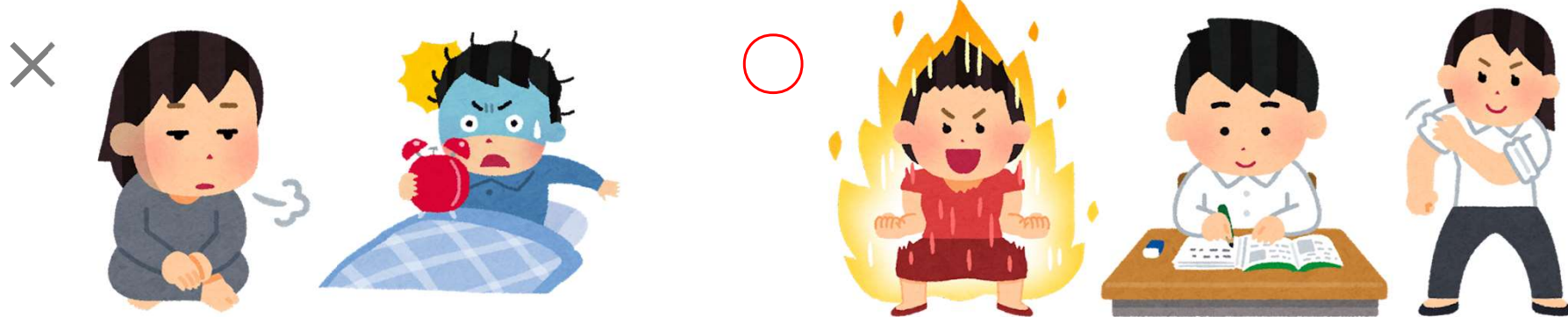
3つの柱「当事者」「自立」「一体感」

利島村“人づくりが島づくり”大綱～利島を良くする「自燃性」の人：「当事者」「自立」「一体感」～

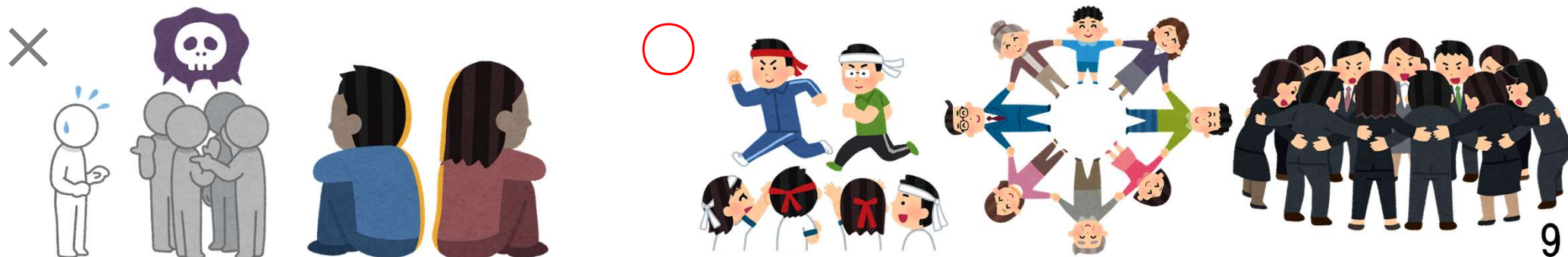
(1) 一人ひとりが、利島や世の中をより良くする「**当事者**」として生涯学び合い、高め合い、行動し合う島づくり



(2) 子供たちの「15の春」に向けた「**自立**」をみんなで実現する島づくり



(3) 多様性のもとで支え合い、住みやすさと幸福を実感できる、「**一体感**」のある島づくり



取組の改善には、「生の声」と「数量的なデータ」の両方が必要

《3つの柱》

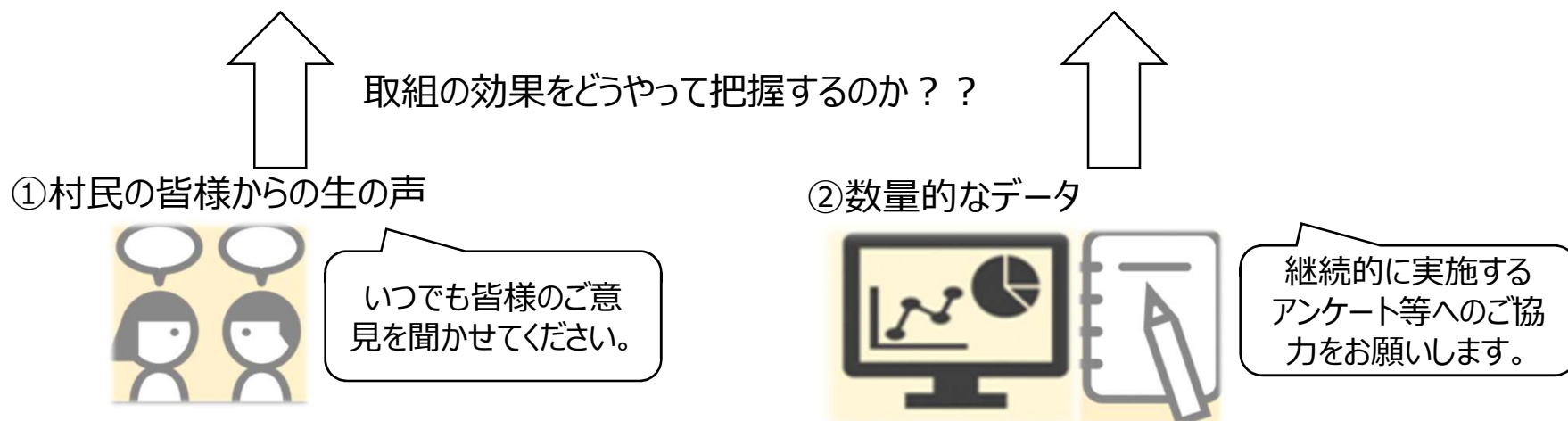
そのために、以下3つの柱を設定し、利島の強みを生かした前向きな取組を推進します。実施する取組は、村民の皆様からの生の声と数量的なデータの両面から効果検証し、改善していきます。

- (1) 一人ひとりが、利島や世の中をより良くする「当事者」として生涯学び合い、高め合い、行動し合う島づくり
- (2) 子供たちの「15の春」に向けた「自立」をみんなで実現する島づくり
- (3) 多様性のもとで支え合い、住みやすさと幸福を実感できる、「一体感」のある島づくり

教育大綱：教育に関する取組を実施していく際の「拠り所」になるもの。

⇒「当事者」「自立」「一体感」（3つの柱）の実現に寄与する取組は推進する・強化する・始める

⇒「当事者」「自立」「一体感」（3つの柱）の実現に寄与しない取組は改善する・縮小する・もしくは中止する



島の教育をより良くしていくために、皆様のご尽力・ご協力をお願いします。

(1) 当事者

- (1) 一人ひとりが、利島や世の中をより良くする「**当事者**」として生涯学び合い、高め合い、行動し合う島づくり
- ・「評論家」ではなく物事を自分事として捉える「当事者」として、利島や世の中を良くするために行動できる人材の育成
 - ・周囲と協調しながら、失敗を恐れずに前向きに挑戦できる人材の育成
 - ・島内外の知恵・知見を生涯にわたって学び続け、現在利島に住んでいなくても利島に貢献できる仕組みの充実

利島における「当事者」の必要性



小規模な利島では、一部の人だけが頑張るだけでは限界。一人ひとりが地域を良くする当事者意識が必要不可欠

周囲と協調しながら、前向きに利島をより良くしていきたい

現在は利島に住んでいないが、島にゆかりがある人のパワーもフル活用して、みんなで利島を良くしていきたい

村民からの声



小さな島だから、一人ひとりが「これしかやらない」ではなく、いろんな役割をみんなで背負っていくことが大事

今は利島に住んでいないけれど、利島に恩返ししたい人はたくさんいるのではないかと。そのような人たちの力を借りたい

(参考) これからの時代における「当事者」の重要性



将来の予測が困難な時代では、一人ひとりが「持続可能な社会の創り手」となるという考え方が重要（第4期教育振興基本計画）

「BE THE PLAYER 自分で考え 動く 生み出す そして社会を変える」（教育先進地域と言われる、石川県加賀市「学校教育ビジョン」のスローガン【右】）



(2) 自立

(2) 子供たちの「15の春」に向けた「自立」をみんなで実現する島づくり

- ・「利島ならではの」環境を生かし、予測不可能な時代にあらゆる場所で活躍できる「利島っ子」を育てる義務教育学校
- ・利島の担い手の一員である教師自身が学び続けて成長できる、「教師が育つ利島」の実現 15ページ
- ・「15の春自立シート」や「利島っ子カリキュラム」に基づき、保育園・学校・家庭・地域等の関係者一丸で子供を応援し、
子 13,14ページ 成長する地 15ページ 子育て

利島における「自立」の必要性



中学卒業と同時に島外に出る利島の子供たちには、内地の子供よりも「自立」が求められる

極少人数の環境、豊かな自然・文化、住民との密なつながりなど、教師が学び育つには、利島は絶好の環境

学校・家庭・地域が一丸となって子供たちの「自立」を応援する仕組みが必要（15の春自立シート）

村民からの声



どの場所でも活躍できる子供たちを育てたい。島の自然・文化を生かした教育も、学力の育成も両方大事

子供たちを島民全員で育てるのが利島の良さ



(参考) これからの時代における「自立」の重要性



そもそも義務教育の目的は、社会において自立的に生きる基礎を培うこと（教育基本法第五条）

これからの教育のキーワードは、「自立した学習者」の育成（中央教育審議会答申）

人生100年時代、何より大人が学び続けることが重要（リンドン・グラッドン氏）

「15の春自立シート」(1.0版) 公表について

- 新しい教育大綱の理念である【子供たちの「15の春」に向けた「自立」をみんなで実現する島づくり】のため、「自立」について共通理解を図るためのもの。
- 教育委員会主催ワークショップ等をもとに、**28の「自立項目」から成る「15の春自立シート」(1.0版)**を作成。
- 子供自身も含め、当事者・関係者の「メタ認知」や「対話」の促進に活用。
- 活用しやすい形を模索し、機動的に改定していく（改善に関する意見募集を随時実施）。

共通理解がないと……

家庭



学校



地域



「15の春自立シート」の活用により

祝卒業

- ✓ 「自立」についての共通理解
- ✓ メタ認知と対話の促進

学校



家庭



地域



利島村“人づくりが島づくり”大綱～利島を良くする「自燃性」の人：「当事者」「自立」「一体感」～【関係箇所抜粋】

(2) 子供たちの「15の春」に向けた「自立」をみんなで実現する島づくり

- ・「利島ならではの」環境を生かし、予測不可能な時代にあらゆる場所で活躍できる「利島っ子」を育てる義務教育学校
- ・利島の担い手の一員である教師自身が学び続けて成長できる、「教師が育つ利島」の実現
- ・「15の春自立シート」や「利島っ子カリキュラム」に基づき、保育園・学校・家庭・地域等の関係者一丸で子供を応援し、子供と大人が共に成長する地域ぐるみの子育て

「15の春自立シート」(1.0版)

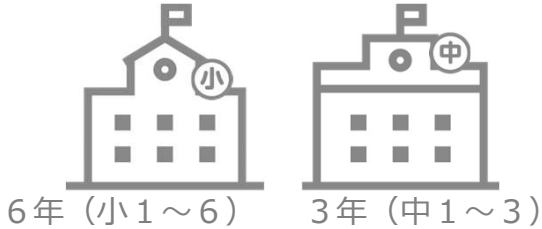
No	分類	自立項目	頑張りどころ
1	学びに向かう力・人間性等	✓ やるべきことの順番をつけて、一人でコツコツと勉強に向かうことができる	学校> 家庭> 地域
2	学びに向かう力・人間性等	✓ 自分にあった学び方を知っていて、その学び方が身についている	学校> 家庭> 地域
3	学びに向かう力・人間性等	✓ 学ぶことが楽しいと思っている。自分で決めることの楽しさ・大切さを知っている	学校> 家庭> 地域
4	学びに向かう力・人間性等	✓ 自分自身の良いところ、強みについて自信を持っている	学校= 家庭> 地域
5	学びに向かう力・人間性等	✓ 失敗したことを落ち込まず前向きに捉え、次に生かすことができる	学校> 家庭> 地域
6	学ぶに向かう力・人間性等	✓ 毎朝、一人で起きることができる。規則正しい生活ができる	家庭> 学校= 地域
7	学ぶに向かう力・人間性等	✓ ここぞという時に、頑張ることができる責任感を持っている	学校= 家庭> 地域
8	学ぶに向かう力・人間性等	✓ 時間や約束を守ることができる	家庭> 学校> 地域
9	学びに向かう力・人間性等	✓ 自分が大切にされてきたことを知っており、日々の「当たり前」に感謝し、自分も周りを大切にできる	家庭> 学校> 地域
10	学びに向かう力・人間性等	✓ 少なくとも自分がされて嫌なことは人にせず、自分がしてもらって嬉しいことを人にできる	家庭> 学校> 地域
11	思考力・判断力・表現力	✓ 自分から挨拶できる	地域> 家庭= 学校
12	思考力・判断力・表現力	✓ 自分から知らない他者に話しかけて、コミュニケーションできる	地域> 家庭= 学校
13	思考力・判断力・表現力	✓ たくさんの人の前でも自己紹介できる等、自分のことを説明できる	学校> 家庭= 地域
14	思考力・判断力・表現力	✓ ふるさと利島の良さと課題を自分なりに話すことができる	学校= 地域> 家庭
15	思考力・判断力・表現力	✓ 生活のお金と遊ぶお金を分けるなど、自分でお金の管理ができる	家庭> 学校> 地域
16	思考力・判断力・表現力	✓ SNSの良さとリスクを理解し、使いこなすことができる	家庭> 学校> 地域
17	思考力・判断力・表現力	✓ 意見が違う人の良いところを見つけ、話をよく聞くことができ、同じくらい話すこともできる	学校> 家庭> 地域
18	思考力・判断力・表現力	✓ 簡単に人や情報を信じ込まずに、嘘か本当かを見極めることができる。	学校> 家庭> 地域
19	思考力・判断力・表現力	✓ 困ったときに、その内容を正確に伝え、助けを求めることができる	学校= 家庭> 地域
20	思考力・判断力・表現力	✓ 「人の好き嫌い」と「考え方の違い」を分けて考えることができる。	学校= 家庭> 地域
21	思考力・判断力・表現力	✓ 自分は一人じゃないということを理解し、命を大切にする意識を持ち続けている	家庭= 学校= 地域
22	思考力・判断力・表現力	✓ 自分の周りや地域を良くするために、考えて行動できる	家庭= 学校= 地域
23	知識・技能	✓ 読み・書き・計算など、社会で当然求められることを、行うことができる	学校> 家庭> 地域
24	知識・技能	✓ 分からないことが出てきた時は、インターネットや本などを使い、自分で情報を集めて整理ができる	学校> 家庭> 地域
25	知識・技能	✓ 自分自身のストレスの発散法について知っている	学校= 家庭> 地域
26	知識・技能	✓ 自分と異なる色々な特徴を持つ人がいることを知っている	学校> 家庭= 地域
27	知識・技能	✓ 正しい性の知識や犯罪・防犯に関する意識を持っている	学校= 家庭> 地域
28	知識・技能	✓ 自らが健康であるために、自分の食事を作ることができたり、洗濯、部屋の整理整頓ができる	家庭> 学校> 地域

義務教育学校と「利島っ子カリキュラム」

9年間を見通した小中一貫教育を更に進めるため、令和6年4月から利島小中学校を「義務教育学校」に移行

組織上、小学校・中学校別々である2校を、1校に統合

現状：利島小学校・利島中学校（2校）



令和5年度（令和6年3月）まで



条例改正：利島小中学校（1校）



令和6年度（令和6年4月）から

利島の学校の良さである「9年間を見通した小中一貫教育」を更に推進できることがメリット

メリット①：利島だからこそできる教育活動が推進しやすくなります。

➤ 利島の環境に適した柔軟なカリキュラム（教育課程）の実施が可能になります。

メリット②：教職員の働き方改革が進み、子供と向き合う時間が増えます。

➤ 組織として小学校・中学校が別々に併存していることで発生している事務負担（同じ書類を小学校・中学校でそれぞれ作成する必要があるなど）を軽減できます。

メリット③：小学校・中学校の制度上の「壁」を取り去り、小中連携が更に進みます。

➤ 利島の教育は、内地の学校に比べて、既にかなり小中連携が進んでいますが、小・中の組織区分がなくなり、教職員は制度上も、「小学校の先生」「中学校の先生」ではなく、「9年間の先生」になります。

義務教育学校の利点を最大限生かすべく、令和6年度、多くの関係者と共に「利島っ子カリキュラム」を策定予定

利島村“人づくりが島づくり”大綱～利島を良くする「自然性」の人：「当事者」「自立」「一体感」～【関係箇所抜粋】

（2）子供たちの「15の春」に向けた「自立」をみんなで実現する島づくり

- ・「利島ならではの」環境を生かし、予測不可能な時代にあらゆる場所で活躍できる「利島っ子」を育てる**義務教育学校**
- ・利島の担い手の一員である教師自身が学び続けて成長できる、「教師が育つ利島」の実現
- ・「15の春自立シート」や「**利島っ子カリキュラム**」に基づき、保育園・学校・家庭・地域等の関係者一丸で子供を応援し、子供と大人が共に成長する地域ぐるみの子育て

(3) 一体感

(3) 多様性のもとで支え合い、住みやすさと幸福を実感できる、「一体感」のある島づくり

- ・利島に「住んでみたい」「住み続けたい」「帰ってきたい」と思う、安心できる「居場所」と盛り上がることのできる「舞台」の創出
- ・「憶測」ではなく「対話」で溢れるようにするための、お互いを認めて語り合える場づくり
- ・一人ひとりの将来と村の将来について見通しを持ち、安心して利島に住み続けられるようにするための支援の充実

利島における「一体感」の必要性



移住者が多い島だからこそ、人々が集まれる場・話せる場を意識的に作る必要がある

地の人も移住者も、大人も子供も関係なく支え合い、住みやすさと幸福を実感できる島へ



村民からの声



運動会など、学校や地域がみんなで盛り上がるような機会が毎年楽しみだ

みんなが本音で話し合えるような機会がたくさんほしい。300人の島なのだから、300人が集める場があると良い

利島の人々が大切にしてきた「結の心」を、今も未来も大切にしてほしい

(参考) 地域社会における「一体感」の重要性



にぎやかな小規模コミュニティには、良い学校行事・地域行事がある（明治大・小田切教授）

人々が幸せに生きるには、「居場所」と「舞台」の両方が必要（福井県立大 高野准教授）

1. 利島村“人づくりが島づくり”大綱の全文【p4】
2. 内容説明【p6-16】
3. **意見募集結果と、修正版への反映状況【p18-21】**
4. 参考資料【p23-28】



としまとずっと

利島村教育大綱～「当事者」「自立」「一体感」～

利島村及び利島村教育委員会は、利島の将来像『生き生きとした活力のある島 自立する村 利島』を実現するため、利島村民や利島にゆかりある人々の力に最大の価値をおきます。

一人ひとりが村の将来を創る「自立した当事者」として活躍する「一体感のある島」利島の実現を目指します。

《3つの柱》

そのために、以下3つの柱を設定し、利島の強みを生かした前向きな取組を推進します。実施する取組は、村民の皆様からの生の声と数量的なデータの両面から効果検証し、改善していきます。

- (1) 一人ひとりが、利島や世の中をより良くする「当事者」として生涯学び合い、高め合い、行動し合う島づくり
- (2) 子供たちの「15の春」に向けた「自立」を全員で実現する島づくり
- (3) 全員が支え合い、住みやすさと幸福を実感できる、「一体感」のある島づくり

- (1) 一人ひとりが、利島や世の中をより良くする「当事者」として生涯学び合い、高め合い、行動し合う島づくり
 - ・「評論家」ではなく物事を自分事として捉える「当事者」として、利島や世の中を良くするために行動できる人材の育成
 - ・周囲と協調しながら、失敗を恐れずに前向きに挑戦できる人材の育成
 - ・島内外の知恵・知見を生涯にわたって学び続け、現在利島に住んでいなくても利島に貢献できる人材の育成

- (2) 子供たちの「15の春」に向けた「自立」を全員で実現する島づくり
 - ・「利島ならではの」環境を生かし、予測不可能な時代にあらゆる場所で活躍できる「利島っ子」を育てる義務教育学校
 - ・利島の担い手の一員である教師自身が学び続けて成長できる、「教師が育つ利島」の実現
 - ・「15の春自立シート」に基づき、学校・家庭・地域等の関係者一丸で子供を応援し、子供と大人が共に成長する地域ぐるみの子育て

- (3) 全員が支え合い、住みやすさと幸福を実感できる、「一体感」のある島づくり
 - ・利島に「住んでみたい」「住み続けたい」「帰ってきたい」と思う、安心できる「居場所」と盛り上がることのできる「舞台」の創出
 - ・「憶測」ではなく「対話」で溢れるようにするための、語り合える場づくり
 - ・一人ひとりの将来と村の将来について見通しを持ち、安心して利島に住み続けられるようにするための支援の充実



利島村“人づくりが島づくり”教育大綱～利島を良くする「自燃性」の人：「当事者」「自立」「一体感」～

利島村及び利島村教育委員会は、利島の将来像『生き生きとした活力のある島 自立する村 利島』を実現するため、利島村民や利島にゆかりある人々（利島人）の力に最大の価値をおきます。

一人ひとりが**自燃性を発揮し**、村の将来を創る「自立した当事者」として活躍する「一体感のある島」利島の実現を目指します。

≪ 3つの柱 ≫

そのために、以下 3つの柱を設定し、利島の強みを生かした前向きな取組を推進します。実施する取組は、村民の皆様からの生の声と数量的なデータの両面から効果検証し、改善していきます。

- (1) 一人ひとりが、利島や世の中をより良くする「当事者」として生涯学び合い、高め合い、行動し合う島づくり
- (2) 子供たちの「15の春」に向けた「自立」を**みんな全員で**実現する島づくり
- (3) **多様性のもとで全員が**支え合い、住みやすさと幸福を実感できる、「一体感」のある島づくり

- (1) 一人ひとりが、利島や世の中をより良くする「当事者」として生涯学び合い、高め合い、行動し合う島づくり
 - ・「評論家」ではなく物事を自分事として捉える「当事者」として、利島や世の中を良くするために行動できる人材の育成
 - ・周囲と協調しながら、失敗を恐れずに前向きに挑戦できる人材の育成
 - ・島内外の知恵・知見を生涯にわたって学び続け、現在利島に住んでいなくても利島に貢献できる**仕組みの充実人材の育成**

- (2) 子供たちの「15の春」に向けた「自立」を**みんな全員で**実現する島づくり
 - ・「利島ならではの」環境を生かし、予測不可能な時代にあらゆる場所で活躍できる「利島っ子」を育てる義務教育学校
 - ・利島の担い手の一員である教師自身が学び続けて成長できる、「教師が育つ利島」の実現
 - ・「15の春自立シート」や「**利島っ子カリキュラム**」に基づき、**保育園・学校・家庭・地域等**の関係者一丸で子供を応援し、子供と大人が共に成長する地域ぐるみの子育て

- (3) **多様性のもとで全員が**支え合い、住みやすさと幸福を実感できる、「一体感」のある島づくり
 - ・利島に「住んでみたい」「住み続けたい」「帰ってきたい」と思う、安心できる「居場所」と盛り上がる事ができる「舞台」の創出
 - ・「憶測」ではなく「対話」で溢れるようにするための、**お互いを認めて**語り合える場づくり
 - ・一人ひとりの将来と村の将来について見通しを持ち、安心して利島に住み続けられるようにするための支援の充実

意見募集結果と修正版への反映状況

新教育大綱（案）についての意見	修正版への反映状況
この教育大綱は、学校教育の範囲のみならず島づくり全体につながる幅広いもの。その意味で「人づくり大綱」「島づくり大綱」などの名前の方が良いのではないか。	ご指摘のように、新しい教育大綱は「人づくりによる島づくり」を目指すものですので、教育大綱の名前を【 “人づくりが島づくり”大綱 】と修正しました。
「生き生きとした活力のある島 自立する村 利島」を担う人物像をイメージできるスローガンのようなものがあるとわかりやすくなる。利島村を担う人物像を示し、その人物に必要な資質が「当事者」「自立」「一体感」ということであれば、すっと腹に落ちる。	利島を担う人物像を【 利島を良くする「自燃性」の人 】と設定しました。
利島において、様々な場所で、様々な人が「当事者」となるが、教育大綱が方向性を1つに定めるものになってほしい。認識のズレがあると心配の種となる。具体的で分かりやすい（曖昧な表記、伝え方をしない）ことが大切。	原案・修正案ともに、伝わりやすさを重視したものとしています。
「当事者」「自立」「一体感」に全面的に賛成。要素として追加検討いただきたいのが、子を認めあう「多様性」。小さいコミュニティであるが故に、（今は違っても）同調圧力が強い環境になる可能性が多い。そうしたことにならないよう、子どもたちが個性を発揮し、それを伸ばせる環境、それを認め合える島だと良い。	3つ目の柱「一体感」に【 多様性のもとで 】の文言を追記しました。また、3つ目の柱の中に【 お互いを認めて 】を追記しました。
教育大綱に記載の「当事者」という言葉について、ネガティブな意味に捉えるケースもあるかもしれない。	小規模な利島では、一部の人が頑張るだけでは限界があると考えています。人任せではなく、みんなで少しずつ島を良くしていきたいという意味で記載しています。
教育大綱に記載の「全員」は村民のみか？ 言い回しとして少し強制力がある気がする。	①村民だけでなく、②島外にいる利島にゆかりがある人も含みます。 ①②を合わせて「利島人」だと追記 しています。島にゆかりのある外部のいろんな力も借り、強制というよりは、みんなで力を合わせてやっていこうという趣旨で「全員」と記載していました。再検討し、より柔らかい表現として【 全員 】を【 みんな 】に変更しました。

意見募集結果と修正版への反映状況

新教育大綱（案）についての意見

修正版への反映状況

現状、保育園と学校の連携が「交流」に留まっている。保育園と小学校のカリキュラム連携が大切。自立した子どもたちの育成のために、小中一貫だけにとどまらず、村全体で一体となり子供を育てる「利島カリキュラム」の編成とその指針となる教育大綱の策定に期待。

「学校・家庭・地域等」の記載に「**保育園**」を明示しました。また、義務教育学校への移行を契機に、保育園も含めた「**利島っ子カリキュラム**」の編成についても順次具体化していければと考えており、教育大綱に追記しました。

特別支援教育の推進を視点に入れてほしい。検査を受けるには島外の医療機関を受診するしかなく、保護者や児童生徒にとってもハードルが高い。離島であっても内地と同様、検査を受け、適切な合理的配慮を受けられる環境を提供できれば。

3つ目の柱で「多様性のもとで」と追記したことに加え、原案で「安心して利島に住み続けられるように」とあるように、支援を充実できるようにしてまいります。

例えば塾がないことへの対応、発達に関する支援、子供も大人も楽しめる自然体験など、地域に寄り添った教育が必要。内地にはあるけれど利島にはなく不自由に感じている保護者がいるので、情報を広く共有することが重要。

1つ目の柱の中で、利島に貢献できる「人材の育成」を「**仕組みの充実**」に変更しました。島内外の知恵・知見をフル活用して、課題解決を図っていきたいと思います。

大人自身も可能な限り心身ともに「自立」した生活も望んでいる。保護者の「心構え」は必須である。子育て世代移住が多くなり賑やかになり、自治体の活性化となると思うが、定住に向けて、「島での暮らし」の難しさも予め説明した方がよい。

「15の春自立シート」も活用しながら、大人も子供も学び合い、共に成長していけるような島づくりを目指します。また、原案で「安心して利島に住み続けられるように」とあるように、支援を充実できるようにしてまいります。

「15の春自立シート」の使い方について、できる・できないをチェックするものにするよりは、子供・保護者・教職員が話し合うきっかけになるようなものであってほしい。

「15の春自立シート」にいただいたご意見を反映しています。

老若男女の社会教育にも力を注いでほしい。地域文化の伝承や、地域で生涯、生き生きと暮らして行くためにも自主的に地域活動をしているサークルの支援継続をお願いしたい

今回の教育大綱は、1つ目の柱にあるように、一人ひとりが「当事者」として生涯学び合える島づくりを目指しています。そのための新しい取組も始めていく予定ですし、生涯学習・社会教育の振興に力を入れることを宣言した大綱となっています。

1. 利島村“人づくりが島づくり”大綱の全文【p4】
2. 内容説明【p6-16】
3. 意見募集結果と、修正版への反映状況【p18-21】
4. 参考資料【p23-28】

意見募集の結果【概要】

- 意見募集により、①教育大綱の位置づけ、②重視すべき視点、③期待する取組について等について意見が寄せられた。
- ①②については、以下の通り。

（意見募集結果）

教育大綱の位置づけについて

- ◆ 「生き生きとした活力のある島 自立する村 利島」を担う人物像をイメージできるスローガンのようなものがあるとわかりやすくなる。利島村を担う人物像を示し、その人物に必要な資質が「当事者」「自立」「一体感」ということであれば、すっと腹に落ちる。【人物像】
- ◆ この教育大綱は、学校教育の範囲のみならず島づくり全体につながる幅広いもの。その意味で「人づくり大綱」「島づくり大綱」などの名前の方が良いのではないか。【教育大綱の名前】
- ◆ 利島において、様々な場所で、様々な人が「当事者」となるが、教育大綱が方向性を1つに定めるものになってほしい。認識のズレがあると心配の種となる。具体的で分かりやすい（曖昧な表記、伝え方をしない）ことが大切。【分かりやすさ】

重視すべき視点について

- ◆ 「当事者」「自立」「一体感」に全面的に賛成。要素として追加検討いただきたいのが、子を認めあう「多様性」。小さいコミュニティであるが故に、（今は違っても）同調圧力が強い環境になる可能性が多い。そうしたことにならないよう、子どもたちが個性を発揮し、それを伸ばせる環境、それを認め合える島だと良い。【多様性】
- ◆ 「多様性の尊重」「共感」といったキーワードが3つの柱を構成する要素としてどこかに入っていると、東京都の進めている方向とも合致する。【多様性】
- ◆ これからの時代に沿うのであれば、「多様性」を入れなければ。3つの柱の(3)の説明を読めば多様性についても受け取れるが、パッと見の見出しが、みんなが右を向いたら全員が右を見なければならぬように感じる。【多様性】
- ◆ 現状、保育園と学校の連携が「交流」に留まっている。保育園と小学校のカリキュラム連携が大切。自立した子どもたちの育成のために、小中一貫だけにとどまらず、村全体で一体となり子供を育てる「利島カリキュラム」の編成とその指針となる教育大綱の策定に期待。【保育園・学校の連携】

意見募集の結果【概要】

- 意見募集により、①教育大綱の位置づけ、②重視すべき視点、③期待する取組について等について意見が寄せられた。
- ③については、以下の通り。

（意見募集結果）

期待する取組について

- ◆ 特別支援教育の推進を視点に入れてほしい。検査を受けるには島外の医療機関を受診するしかなく、保護者や児童生徒にとってもハードルが高い。離島であっても内地と同様、検査を受け、適切な合理的配慮を受けられる環境を提供できれば。【特別支援教育】
- ◆ 例えば塾がないことへの対応、発達に関する支援、子供も大人も楽しめる自然体験など、地域に寄り添った教育が必要。内地にはあるけれど利島にはなく不自由に感じている保護者がいるので、情報を広く共有することが重要。【地域に寄り添った教育】
- ◆ 大人自身も可能な限り心身ともに「自立」した生活も望んでいる。保護者の「心構え」は必須である。子育て世代移住が多くなり賑やかになり、自治体の活性化となると思うが、定住に向けて、「島での暮らし」の難しさも予め説明した方がよい。生涯、利島で生きていこうと思う一人として、何か手伝えることが無いか、出来ることは無いかと思う。【大人側の「自立」】
- ◆ 老若男女の社会教育にも力を注いでほしい。地域文化の伝承や、地域で生涯、生き生きと暮らして行くためにも自主的に地域活動をしているサークルの支援継続をお願いしたい。【社会教育の充実】

「村長・教育長との意見交換会」の内容紹介【第1回概要】

➤ 11月3日に第1回の意見交換会を開催。主な内容については以下の通り。

(意見交換会における意見概要)

Q教育大綱に記載の「自立」とは何か？

➤ 「自立」と「自律」の両方の意味がある。利島の場合、「自立」が広い意味で使われており、15歳で親元を離れる点の特徴。その際に求められる力を広い意味で「自立」と捉えている。「自立」は子供たちだけでなく我々大人側も、村の行政としても目指すべき方向。

Q教育大綱に記載の「当事者」という言葉について、ネガティブな意味に捉えるケースもあるかもしれないが、その意味は？

➤ 小規模な利島では、一部の人が頑張るだけでは限界。人任せではなく、みんなで少しずつ地域を良くしていきたいという意味。今回の教育大綱は伝わりやすさを重視しながら案を作成しているので、多くの方からご意見いただければ。

Q教育大綱に記載の「全員」は村民のみか？言い回しとして少し強制力がある気がする。

➤ 村民だけでなく、島外にいる利島に関わる人も含む。島にゆかりのある外部のいろんな力も借りたい。強制というよりは力を合わせてやっていこうという趣旨。より良い言い回しがあるか検討したい。

Q「大綱」なので少し抽象的な記載にも見えるが、この教育大綱をつくることでどのような効果があるのか。

➤ 教育大綱は、教育に関する取組を実施する際の「拠り所」なので、ここに掲げる方向性に合う取組は進めるし、合わない取組はやめるきっかけにもなる。

Q「義務教育学校化」は、どのようなものか。

➤ チャレンジしやすくする環境を作るための制度改正。少しずつ具体的な取組につなげていく。

Q「15の春自立シート」の使い方について、できる・できないをチェックするものにするよりは、子供・保護者・教職員が話し合うきっかけになるようなものであってほしい。

➤ その通り。実際、作成のためのワークショップ後に、親子で話し合った例もあると聞いている。

「村長・教育長との意見交換会」の内容紹介【第2回概要】

➤ 11月13日に第2回の意見交換会を開催。主な内容については以下の通り。

(意見交換会における意見概要)

Q教育大綱の議論の際には、どんな島を目指したいのかについても、しっかり議論をしていく必要があるのではないか。

➤ 目指したい島像は「帰ってきたくなる島」。そのため、利島のために何かしたいと思う人、利島で子ども時代を過ごせてよかったと思う人、内地にいても利島を思ってくれる人を育てていきたい。

Q利島の今後のビジョンも踏まえた上で、魅力ある学校にしていくことが必要。

- 教育大綱は、最低限この部分は押さえておきたいという文言集。現案に盛り込んでいる「どの場所でも活躍できる子を育てる」というのは利島の学校教育が目指す方向性。
- 特色ある学校づくりが、特色ある村づくりにつながっている。逆も然りで、特色ある村づくりが特色ある学校づくりにつながる。他地域の事例で言えば、魅力的な学校施設の開校を起点に、移住者が増えた地域の例もある。

Q教育大綱に掲げている当事者を高めるために、村民に向けて様々な情報を発信してほしい。現状、情報が飛び飛びであったり、届かなかったりすると感じている。また、自発的に当事者になれる人もいれば、待ちの姿勢の人もある。

➤ あまり表に出てこれない方に対しても、情報発信について多くの手段を活用して情報を届ける場や機会を設定したい。

Q「15の春自立シート」を活用し、「自立」について地域/家庭/学校の3者が共通の理解、一体感を持つ状況になるとよい。

➤ 1つの指標として「15の春自立シート」を活用し、機動的に改定しながらより良いものにしていければと考えている。

(利島と利島の教育の特徴)

- ◆ 利島は島内に高校がなく、全校の児童生徒数が少ない。小さな社会の中で生きていくことが自然と求められる。この小さな社会で成長して中学を卒業していくことが、いい方にも悪い方にも転びうると思う。
- ◆ 私の娘や息子は島に育ててもらったという感覚がある。一方、人数が少なく、みんなが主役になる利島村という環境が重圧になる子どももいる。いい面と難しい面とある。
- ◆ 前任校にいた時、その地域の一員という感覚はあまりなかったが、利島に赴任して、島の行事や、最近もみかん狩りをさせていただくなど、村の人と関わる機会があり、利島村の一員という意識を持つことができた。
- ◆ 教員の立場で言えば、子どもが活躍している姿を、村民にもっと見てもらいたいと思う。運動会や文化祭は、学校の時間と村の時間で分かれているが、教員と村の人との関わり、つながりが深まるといい。

利島村教育大綱 ～夢と希望をつなぐ 学びの道しるべ～平成28年8月

〈教育大綱策定に当たって〉

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により規定された「地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」として、本教育大綱を定めるものです。

この度の法律改正の趣旨は、地方教育行政における教育委員会制度の改革を行うことにより、教育の中立性、継続性・安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、自治体の長と教育委員会との連携の強化を図ろうとするものです。

利島村においては、平成28年8月25日に開催された総合教育会議において、「利島村教育大綱」として策定いたしました。

利島村及び利島村教育委員会は、利島の子供たちが夢や希望を抱き、澆刺として学び、人のため、社会のために役に立とうとする気概を育ててまいります。

また、永年に亘って受け継いできた伝統・文化を大切に、利島村の人々が利島で暮らすことに幸せと誇りを感じるよう、さらには利島村のすべての人々が生き生きと活動し、明るく健康に生活できるよう、本教育大綱に則り教育行政を推進してまいります。

利島村の教育のさらなる充実及び利島村の一層の発展を期して、以下に教育大綱の基本理念及び基本方針を定めます。

東京都利島村長 前田福夫

〈基本理念〉

利島村及び利島村教育委員会は、学校教育及び社会教育の充実を図り、村民一人一人が地域社会の担い手として活躍する利島村の実現を目指す。

また子供たちが知性、徳性、体力を培い、逞しく生きることができるよう3つの柱を掲げ、利島村の教育を推進する。

- I 子供たちの自立に向け、幅広い知識と教養と共に心豊かな人間性を育む教育
- II 郷土を愛し、人のため社会のために貢献できる人材の育成
- III 生涯を通じ、互いに学び合い、支え合い、高め合うことのできる教育支援の充実

本教育大綱が、利島の未来を担う子供たちにとって夢と希望をつなぐ『学びの道しるべ』となるよう、また利島村の教育の発展に資するよう以下に基本方針を示す。

<基本方針>

1 学校教育の充実
(人権教育の推進)

・すべての子供たちが、人権尊重の理念を正しく理解し、周りの人に対する思いやりの心を持ち、自尊感情を育むと共に社会生活の基本的なルールや規範意識等を身に付ける教育を推進する。

(自立心の育成)

・変化の激しい現代社会に生きるため、また子供たちが中学校卒業と同時に利島を離れなければならない現実を鑑み、子供たちに豊かな人間性、確かな学力、健康・体力等の「生きる力」を育み、自立の精神を養う。

(利島の特性を生かして)

・利島小学校、利島中学校併設の利点を生かし、小中一貫教育を推進することにより、学力の向上を目指す。
・故郷（ふるさと）利島に愛着を感じ、地域に貢献しようとする〈ふるさと教育〉の充実を図る。

2 郷土に貢献できる人材の育成

・子供たちの豊かな学びを支える教育環境を整え、村全体で子供たちを見守り、育む。
・子供たちが地域の人々や自然、文化に触れる機会を設け、地域社会の形成者としての資質を養う。
・子供たちに郷土を誇りに思う心を培うことにより、日本人としての自覚を促し、国際社会に参加、協力する態度や能力を育成する。

3 ふるさと利島の発展のために

・社会教育の充実を図り、誰もが生涯を通じ、意欲的に学べる場を設け、活気のある『ふるさと利島』の実現を目指す。
・地域の財産である有形、無形文化財の保護及び伝統の継承を図る。
・村民各位が、健康で文化的な生活を送れるよう、地域に根ざした芸術・文化を振興すると共に健康増進に資するスポーツ施策等を推進する。
・離島、利島の特性を生かした教育機会を工夫し、創出する。